

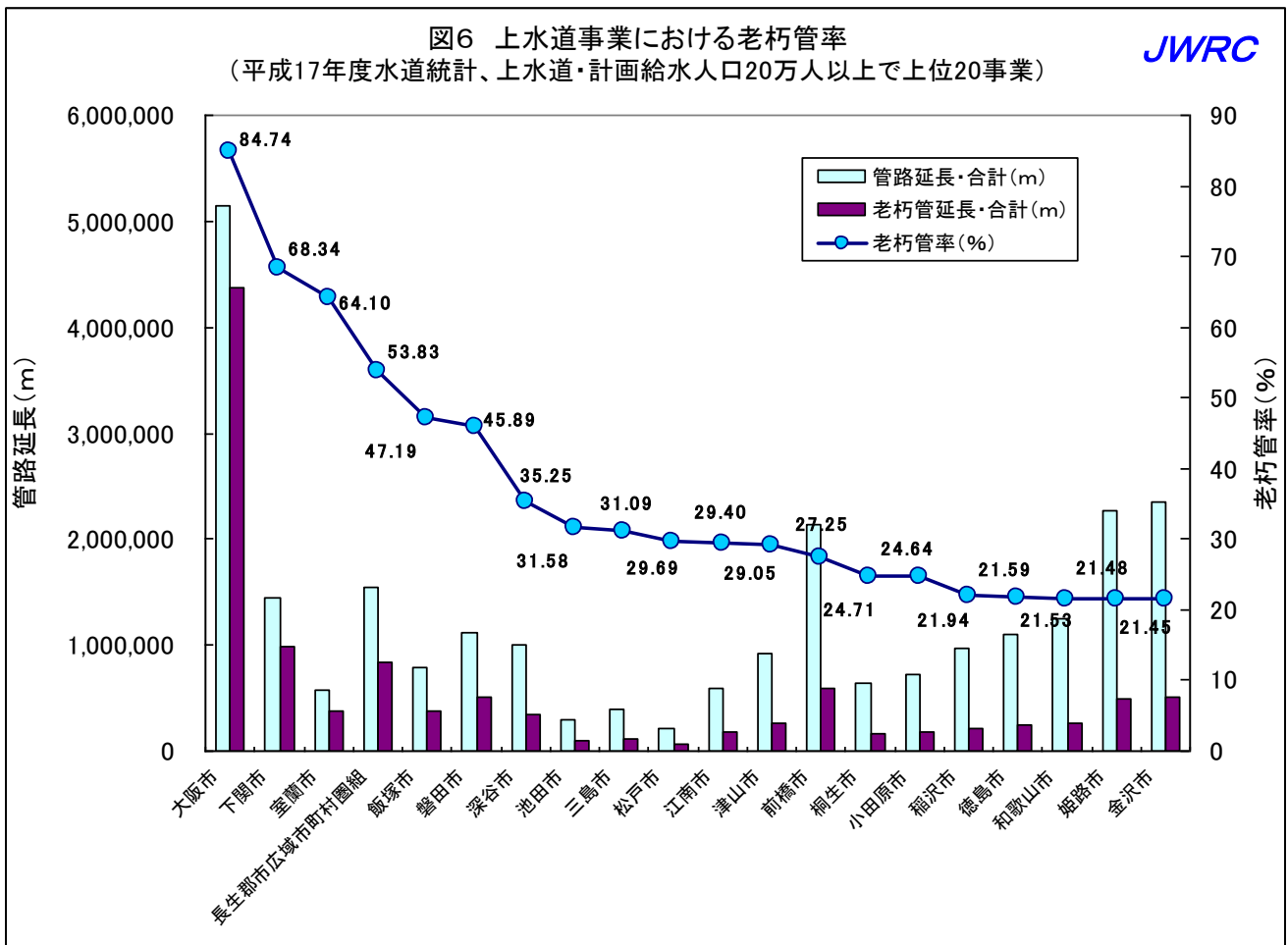
(財)水道技術研究センター  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1  
虎ノ門電気ビル2F  
TEL 03-3597-0214, FAX 03-3597-0215  
E-mail [jwrchot@jwrc-net.or.jp](mailto:jwrchot@jwrc-net.or.jp)  
URL <http://www.jwrc-net.or.jp>

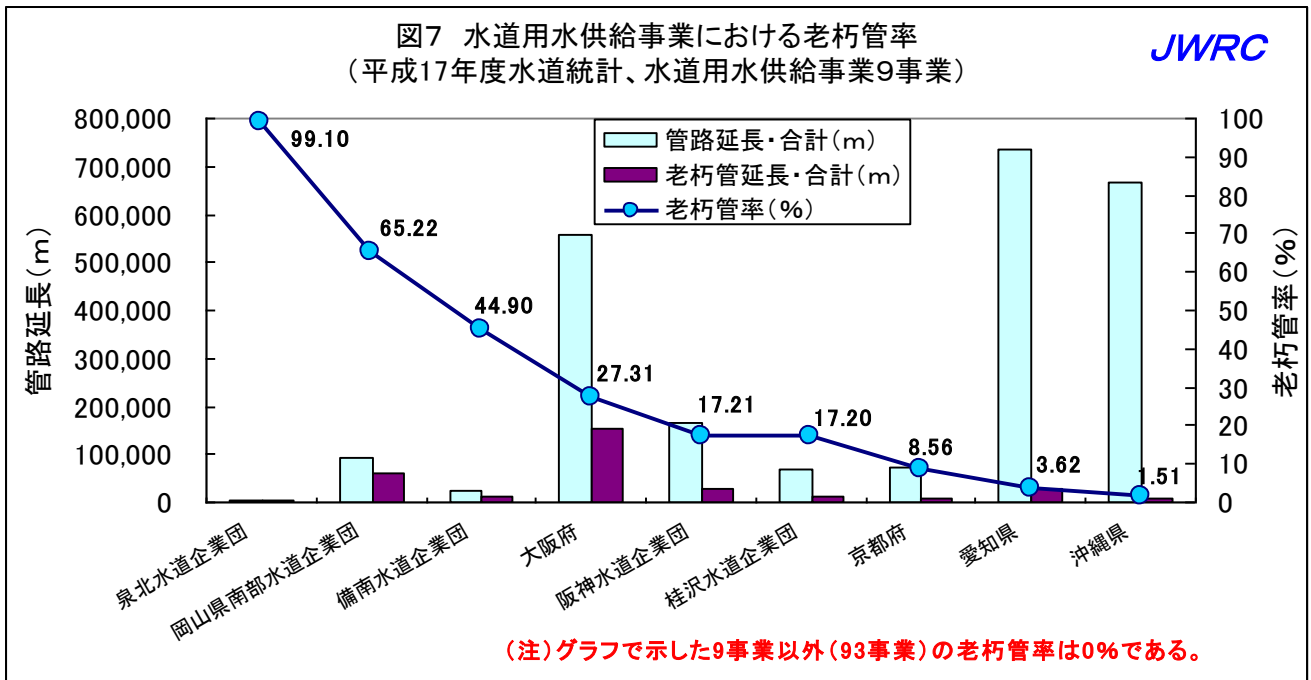
**今後、急速に高齢化する日本の水道管路（その2）**  
**（法定耐用年数を超えた水道管（老朽管）延長について）**  
**－平成17年度水道統計に基づく試算結果（その2）－**

**3. 上水道事業・水道用水供給事業で老朽管率の高い事業（平成17年度）**

図6は、上水道1,602事業のうち、計画給水人口が20万人以上の事業について、平成17年度において老朽管率が高い上位20事業の状況をグラフで示したものである。

図7は、同じく水道用水供給102事業についてグラフ化したものであるが、グラフで示した9事業以外の93事業の老朽管率は「0%」である。





#### 4. 今後、急速に高齢化する日本の水道管路

図8は、上水道事業及び水道用水供給事業を対象に、管路の口径別・布設年度別延長をグラフにしたものである。

なお、1941～1990年は「各10年間」における布設延長であるが、1991年以降は「1991～2002年」の「12年間」の布設延長であることに留意願いたい。

図8からわかるように、1970年までと比べて、1971年以降における管路の布設延長はかなりの伸びとなっている。そして、「1971～1980年」の間に布設された管路は、今から3年後の2011年時点には布設後「31～40年」経過することとなり、今後、日本の水道管路は、急速に「高齢化」の時代に入っていくこととなる。

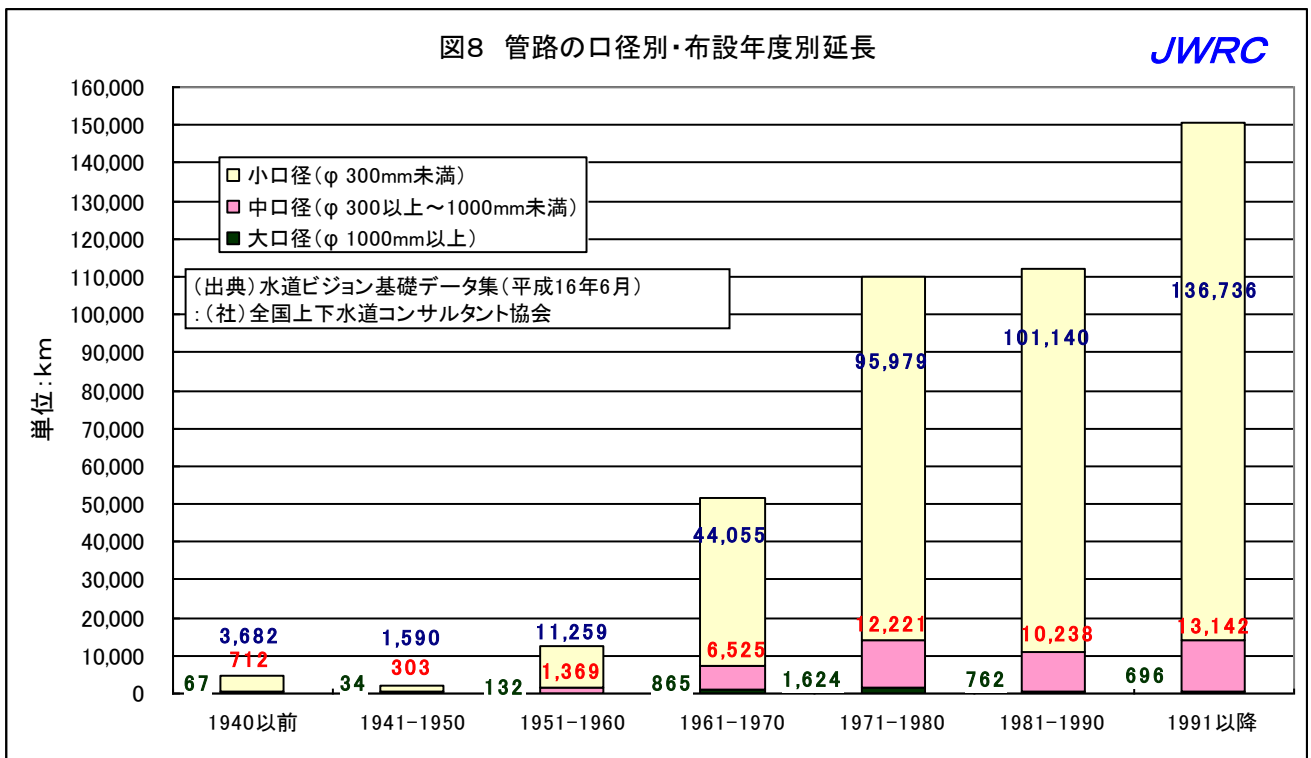


表2は、図8で示した布設年度別延長データをもとに、2000年、2010年及び2020年時点での老朽管率等を仮に試算したものである。特に、老朽管率については、2003年以降に布設された管路データが入っていないため（分母が確定しないため）、あくまで「仮試算」であることに留意願いたい。

表2 2000年、2010年及び2020年時点での老朽管率等（仮試算）

	2000年時点での 老朽管延長 (km)	2010年時点での 老朽管延長 (km)	2020年時点での 老朽管延長 (km)	2000年時点での 老朽管率 (%)	2010年時点での 老朽管率 (%)	2020年時点での 老朽管率 (%)
大口径(φ 1,000mm 以上)	233	1,098	2,722	5.57	26.26	65.10
中口径(φ 300以 上～1,000mm未 満)	2,384	8,909	21,130	5.36	20.01	47.46
小口径(φ 300mm 未満)	16,531	60,586	156,565	4.19	15.36	39.69
合計	19,148	70,593	180,417	4.32	15.93	40.71

図9は、大口径・中口径・小口径別にみた老朽管延長の推移（試算）をグラフにしたものであり、図10は、老朽管率の仮試算結果をグラフにしたものである。

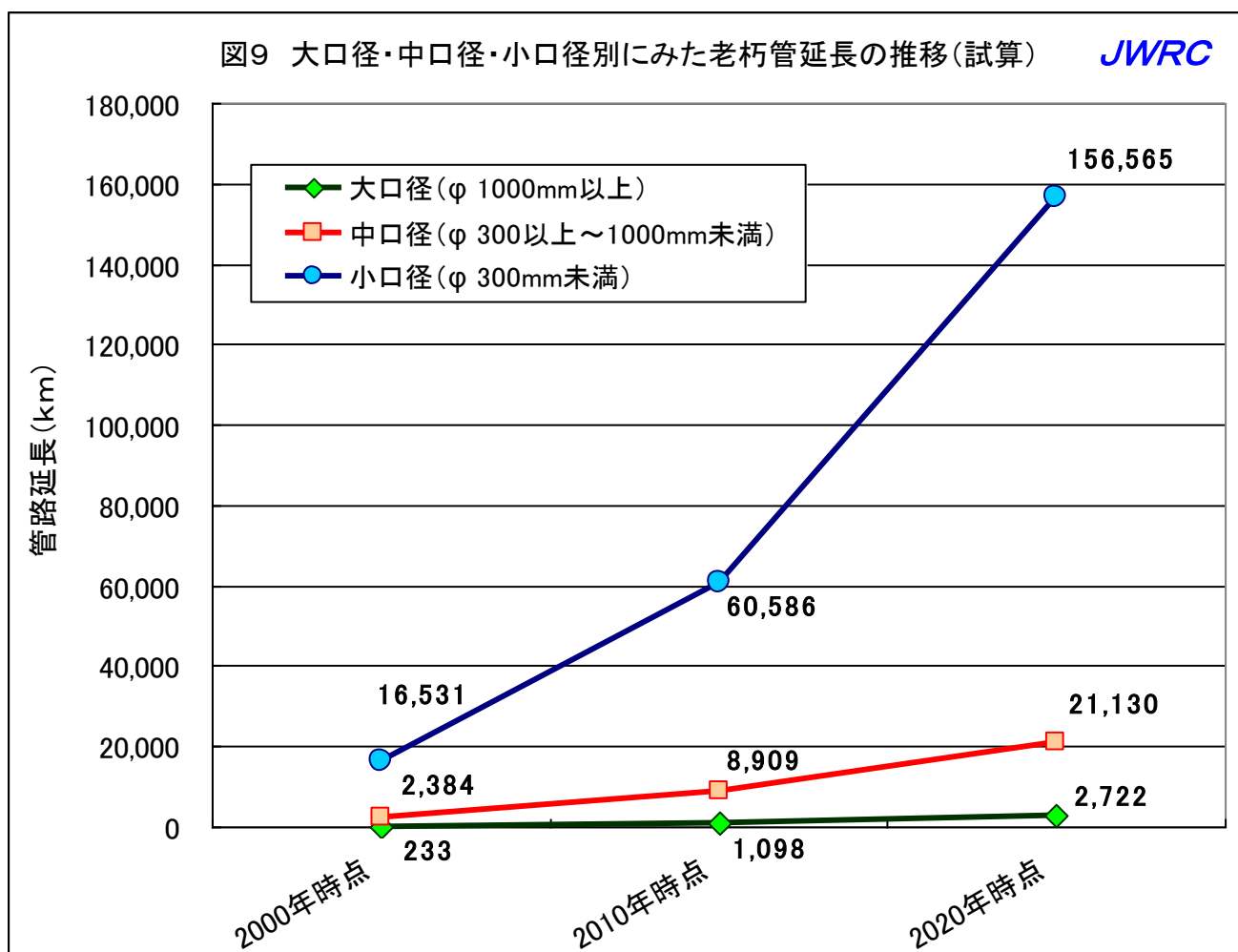
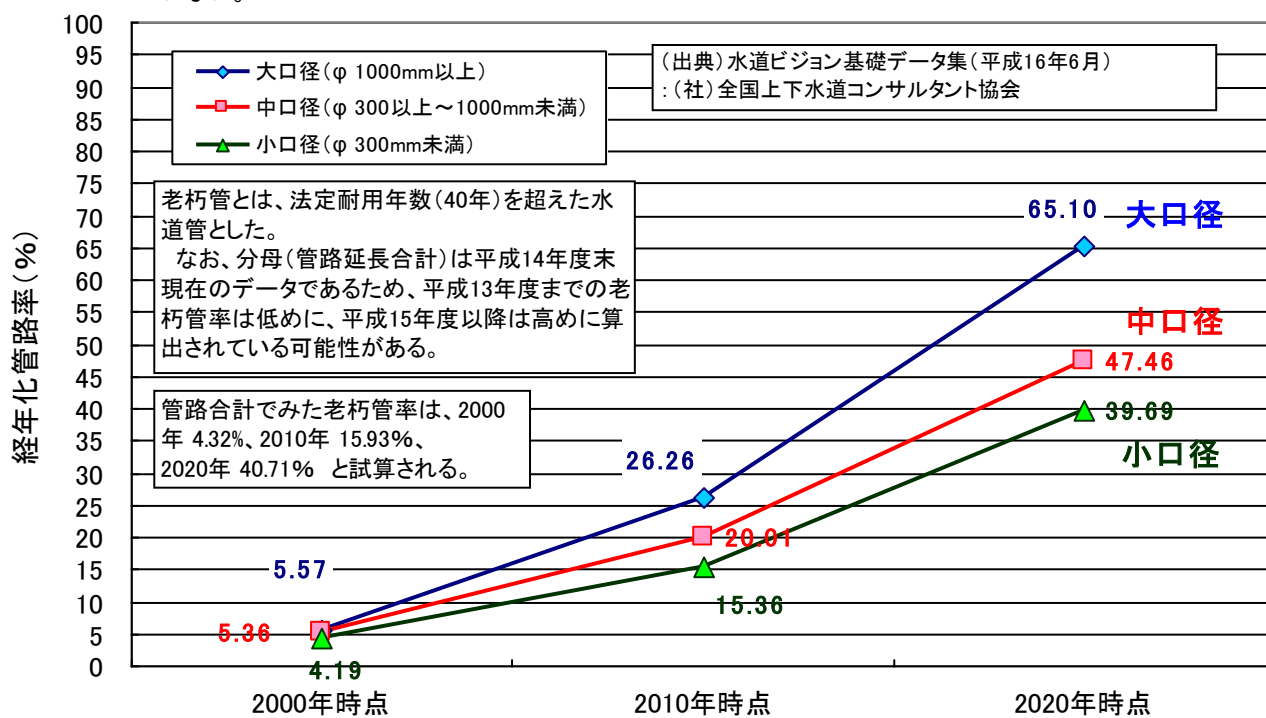


図10 老朽管率の推移(仮試算)  
 —急速に高齢化に向かう日本の水道管路—

(注)平成14年度末現在のデータによる。したがって、平成15年度以降に布設された管路は含んでいない。



(文責) センター常務理事兼技監 安藤 茂

配信先変更のご連絡等について

「JWRC水道ホットニュース」配信先の変更・追加・停止、その他ご意見、ご要望等がございましたら、会員様名、担当者様名、所属名、連絡先電話番号をご記入の上、下記までE-メールにてご連絡をお願いいたします。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル2F (財)水道技術研究センター ホットニュース担当

E-MAIL : [jwrchot@jwrc-net.or.jp](mailto:jwrchot@jwrc-net.or.jp)

TEL 03-3597-0214 FAX 03-3597-0215

また、ご連絡いただいた個人情報は、当センターからのお知らせの配信業務以外には一切使用いたしません。